

土佐日記「門出①」定期テスト対策練習問題無料プリント

年	組	番	名前
---	---	---	----

次の土佐日記「門出」の原文を読んで問いに答えなさい。

男もすなる日記といふものを、女もしてみむとて、するなり。

①その年の十二月の二十日あまり一日の日の②戌の刻に、門出す。

③その由、いささかにものに書きつく。

④ある人、県の四年五年果てて、例のことどもみなし終へて、⑤解由など取りて、住む館より出でて、船に乗るべき所へ渡る。かれこれ、⑥知る知らぬ、送りす。

⑦年ごろよく比べつる人々なむ、別れがたく思ひて、⑧日しきりにとかくしつつ、⑨ののしるうちに、夜更けぬ。

二十二日に、和泉の国までと、平らかに⑩願立つ。藤原のときぎね、船路なれど、⑪馬のはなむけす。

⑫上中下、⑬酔ひ飽きて、いとあやしく、⑭潮海のほとりにて、あざれあへり。

問1 土佐日記の作者を漢字で答えなさい。

問2 問1の人物の代表作を次の中から選びなさい。

- ア：新古今和歌集
- イ：平家物語
- ウ：仮名序
- エ：伊勢物語



問3 土佐日記が完成した時代を答えなさい。

問4 土佐日記の内容として正しいものを次の中から選びなさい。

- ア：土佐で国司の努めた男の出世街道
- イ：土佐で国司を務める男の日々の記録
- ウ：土佐で国司を努めた男の帰京までの記録
- エ：土佐で国司を務める男が土佐の人々の生活を記録したもの

問5 下線①の「その年」の内容として正しいものを次の中から選びなさい。

- ア：男が土佐へ国司として赴任した年
- イ：男が国司の任務を終えた年
- ウ：男が日記を書き始めた年
- エ：男が国司になった年

問6 下線②「戌の刻」の読みかたを答えなさい。また、何時頃のことか答えなさい。

問7 下線③「その由」の読みかたを答えなさい。また、現代語訳しなさい。

問8 下線④「ある人」とは誰のことか答えなさい。

問9 下線⑤「解由」の読み方を答えなさい。



問10 「解由」とはどんなものか、正しいものを次の中から選びなさい。

- ア：国司としての任務を適正に終えた証明書
- イ：不正を行ったことに対する弁解書
- ウ：国司としての任務を解く命令書
- エ：土佐の人々への別れを伝える決別書

問11 下線⑥「かれこれ、知る知らぬ、送りす」を現代語訳しなさい。

問12 下線⑦「年ごろよく比べつる人々」を現代語訳しなさい。

問13 下線⑧「日しきりにとかくしつつ」の意味として正しいものを次の中から選びなさい。

- ア：日が経つにつれて何とかしつつ
- イ：毎日のようにせわしくしつつ
- ウ：一日おきに何かをしつつ
- エ：一日中あれこれしつつ

問14 下線⑨「ののしる」を現代語訳しなさい。

問15 下線⑩～⑭を、それぞれ読みを歴史的仮名遣いで答えなさい。

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭



問16 「①「男もすなる」の「なる」と②「女もしてみむとするなり」の「なり」について、それぞれの助動詞の意味を答えなさい。

①

②

問17 ①「知る知らぬ」の「ぬ」と、②「夜更けぬ」の「ぬ」について、それぞれの助動詞の意味を答えなさい。

①

②

問18 「よく比べつる人々なむ」の係助詞の結びについて、説明しなさい。

問19 「藤原のときざね、船路なれど、馬のはなむけす。」の面白さについて簡単に説明しなさい。

問20 「いとあやしく、潮海のほとりにて、あざれあへり」とあるが、本来の意味は「海のほとりでふざけ合っている」となり、とくに不思議ではない。なぜ作者は「いとあやしく」と述べているのか、「あざれあへり」のもうひとつの意味に注目して、簡単に説明しなさい。



土佐日記「門出①」定期テスト対策練習問題（解答）

問1 紀貫之

問2 ウ

【解説】紀貫之は古今和歌集の編集者であるので、アを選んでしまわないように気をつけよう。

問3 平安時代

問4 ウ

問5 イ

問6 読み：いぬのとき

時間：午後八時頃（二十時頃）

【解説】時間は、八時頃と答えるのであれば、きちんと「午後」もつけているか注意しよう。午後七時から午後九時（十九時～二十一時）も正しいが、このような答え方で正解となるかどうかは、事前に学校の担当の先生に確認をしておこう。

問7 読み：そのよし

現代語訳：その状況

【解説】理由の「由」が使われていることから、「その理由」と現代語訳しないように気をつけよう。

問8 紀貫之

問9 げゆ



問 | 0 ア

問 | 1 (例) あの人この人、知る人知らぬ人(が)見送りをする。

問 | 2 (例) この長年たいそう親しく交際していた人たち

問 | 3 エ

問 | 4 大騒ぎする

【解説】「ののしる」は現在では「罵る(悪口を浴びせる)」という意味なので、間違えないように注意しよう。

問 | 5 ⑩「願」：ぐわん

⑪「馬」：むま

⑫「上中下」：かみなかしも

⑬「酔ひ」：ゑひ

⑭「潮海」：しほうみ

問 | 6 ①:伝聞推定の助動詞

②:断定の助動詞

【解説】「すなる」=「す」(終止形)+伝聞推定の助動詞の「なり」。「するなり」=「する」(「す」の連体形)+断定の助動詞「なり」。「なり(なる)」の直前の語が終止形だと伝聞推定、連体形だと断定の意味になる。

問 | 7 ①打ち消しの助動詞(「ず」の連体形)

②完了の助動詞(「ぬ」の終止形)

問 | 8 (例) 本来なら、述語である「別れがたく思ふ」は結びなので連体形にならないが、まだ文は「日しきりに、・・・」と続いているために、「別れがたく思ひて」と接続助詞の「て」が付いてしまい、結びが消滅している。



問 19 (例) 藤原のときざねが馬のはなむけ (送別の宴) をしてくれたが、この旅は馬での移動ではなく、船旅だということ

問 20 (例) 塩が効いている海のそばなのに、腐っているから。

